

ICG 蛍光法による血流評価と縫合不全についての後ろ向き観察研究

【背景・目的】

大腸癌切除手術において、吻合部の腸管血流は縫合不全予防のための重要な因子です。近年吻合部の血流評価方法として ICG 蛍光法が開発され、平成 30 年度より保険適応となっています。当院でもこの方法を導入しています。縫合不全に対する ICG 蛍光法の有効性を評価することは、今後の手術治療における医学的情報の集積に寄与することができます。

【使用薬剤の概要】

- 薬剤名：ジアグノグリーン
- 使用方法：手術中に静注
- 使用量：1 回 0.5mg (通常使用量の約 1/50)
- 期待される効果：安全な腸管吻合
- 予想される副作用：過敏症 悪心、嘔吐、蕁麻疹、発熱 (0.1%未満)、ショック (頻度不明)、アナフィラキシー (頻度不明)
- この薬剤は通常、肝機能検査、循環機能検査、乳癌、悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節 (がん細胞が最初に到達、転移するリンパ節) の同定に用いられます。

【研究対象者】

2018 年から 2023 年 12 月までの間に、大腸癌手術で腸管吻合を受けられた患者様を対象としています。年齢・性別・疾患名・血液検査所見・画像検査所見・術式・出血量・手術時間・術後経過などを調査します。

【個人情報保護】

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。さらに、研究目的以外には決して使用されることはありません。なお、この研究は当院倫理委員会で承認されています。

上記の研究に登録したくない場合は、担当医または以下にご連絡ください。なお申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

この研究計画についてご質問がある場合は以下までご連絡ください。

【研究責任者】

京都第一赤十字病院 消化器外科
池田純 (副部長)・塩飽保博 (部長)

ICG 蛍光法による血流評価と縫合不全についての後ろ向き観察研究

【背景・目的】

大腸癌切除手術において、吻合部の腸管血流は縫合不全予防のための重要な因子です。近年吻合部の血流評価方法として ICG 蛍光法が開発され、平成 30 年度より保険適応となっています。当院でもこの方法を導入しています。縫合不全に対する ICG 蛍光法の有効性を評価することは、今後の手術治療における医学的情報の集積に寄与することができます。

【使用薬剤の概要】

- 薬剤名：ジアグノグリーン
- 使用方法：手術中に静注
- 使用量：1 回 0.5mg (通常使用量の約 1/50)
- 期待される効果：安全な腸管吻合
- 予想される副作用：過敏症 悪心、嘔吐、蕁麻疹、発熱 (0.1%未満)、ショック (頻度不明)、アナフィラキシー (頻度不明)
- この薬剤は通常、肝機能検査、循環機能検査、乳癌、悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節 (がん細胞が最初に到達、転移するリンパ節) の同定に用いられます。

【研究対象者】

2018 年から 2023 年 12 月までの間に、大腸癌手術で腸管吻合を受けられた患者様を対象としています。年齢・性別・疾患名・血液検査所見・画像検査所見・術式・出血量・手術時間・術後経過などを調査します。

【個人情報保護】

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。さらに、研究目的以外には決して使用されることはありません。なお、この研究は当院倫理委員会で承認されています。

上記の研究に登録したくない場合は、担当医または以下にご連絡ください。なお申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

この研究計画についてご質問がある場合は以下までご連絡ください。

【研究責任者】

京都第一赤十字病院 消化器外科
池田純 (副部長)・塩飽保博 (部長)